

主に遣わされた預言者

アモス書7章

わたしは預言者でもなく、また預言者の子でもない。わたしは牧者である。……ところが主は……「行って、わが民イスラエルに預言せよ」と、主はわたしに言われた。(14、15)

預言者アモスの言葉を聞いたベテルの祭司アマジヤは、何とかしてアモスを追放しようと企みます。聖所ベテルにおいて高い身分にあり、権勢と富を持つていたアマジヤは自分の地位と生活を脅かすアモスを野放しにしておいてはならないと考えたのです。

そこでアマジヤはアモスに対して、反逆罪で逮捕される前にユダに帰るように勧めます。アモスが収入を得たいがために預言活動をしているかのように見なしていたのです。これに対してアモスは、自分も父もその預言によつて収入を得る職業的預言者ではなく、もともとは羊を飼う牧者であり、桑の木を作る農夫であると語ります。報酬が目当てで預言をしているのではないのです。彼が預言をするただ一つの理由は、「行って、わが民イスラエルに預言せよ」と主に命じられたからです。主の命令であるゆえ、たとえ人々から非難を受け、売国奴呼ばわりされたとしても、臆することなく主の言葉を語りました。彼は自分が主によつて遣わされた者であると信じていました。遣わしてくださった主への固い信頼があるからこそ、どんな中傷にも惑わされることなく、神の言葉を語り続けることができました。今も、神の言葉を語る者たちにとつて無くてならぬのは、自分を遣わしておられる主への確かな信頼でしょう。それがあからこそ、語り続けることができるのです。